

改訂版 集中治療に携わる看護師のクリニカル・ラダーと実践例（案） パブリックコメント用

レベル	I	II	III	IV	V	
[JNA] レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的な判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	
[JSICM] レベル毎の定義と解釈	集中治療領域の基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する (例えば、開心術、開頭術、開腹術の患者に対する看護実践)	集中治療領域の標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する (例えば、開心術、開頭術、開腹術の患者に対する看護実践)	患者の病態を把握し、患者・家族に合う個別的な看護を実践する (例えば、敗血症、循環不全、呼吸不全、多臓器不全の患者に対する看護実践)	幅広い視野で予測的な判断をもち看護を実践する (例えば、エンドオブライフケア、臓器移植患者・家族に対する看護実践)	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する (例えば、PICSケア)	
ニーズをとらえる力	[JNA] レベル毎の目標	助言を得てケアの受け手や状況（場）のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）を統合しニーズをとらえる	
	[JSICM] レベル毎の目標	助言を受けて集中治療にある患者・家族や状況（場）のニーズをとらえる	集中治療にある患者・家族や状況（場）のニーズを自らとらえる	集中治療にある患者・家族や状況（場）の特性をふまえたニーズをとらえる	集中治療にある患者・家族や状況（場）を統合しニーズをとらえる	
	[JNA] 【行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	実践例	助言を受けながら患者の術前から術式をふまえた疾患・病態の理解に必要な情報収集ができる 助言を受けながら患者の術後の呼吸、循環、代謝の状態に関する情報収集ができる 助言を受けながら生命維持装置（人工呼吸器・ペースメーカー・CRRT）が必要な患者のフィジカルアセスメントができる 助言を受けながら患者・家族に対しガイドラインに基づいた早期離床のための情報収集ができる 助言を受けながら患者・家族の痛み・精神症状に関する情報収集ができる 助言を受けながら患者の生体モニターやフィジカルアセスメントを通して急変が認識できる	患者の術前からの術式をふまえた疾患・病態の理解に必要な情報収集ができる 患者の術後の呼吸、循環、代謝の状態に関する情報収集ができる 生命維持装置（人工呼吸器・ペースメーカー・CRRT）が必要な患者のフィジカルアセスメントができる 患者・家族に対しガイドラインに基づいた早期離床のための情報収集ができる 患者・家族の痛み・精神症状に関する情報収集ができる 患者の生体モニターやフィジカルアセスメントを通して急変が認識できる	臓器障害にある患者の個別性を踏まえて重要臓器の評価を通して、合併症予防と早期回復に向けたニーズを把握できる 臓器障害での生命維持に必要な医療機器を使用している患者のフィジカルアセスメントができる 複雑な病態にある患者・家族に必要な精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ情報収集ができる 臓器障害にある患者の臓器評価を踏まえて、優先度の高いニーズをとらえることができる	全人的看護の視点に基づき、生命の危機にある患者・家族に対して、予測的な状況判断のもと意図的にニーズを把握できる 生命の危機にある患者の全体像を把握し、時間の経過とともに推移する状況を予測性をもってとらえることができる 高度なコミュニケーションスキルを駆使し、患者・家族の価値観に基づきニーズをとらえることができる 生命維持に関わる医療機器管理を受けている患者・家族の治療継続・中断に関するニーズを把握できる	患者・家族の長期にわたるQOLの高い生活を考慮した視点でのニーズを把握できる 高齢者・活動耐性の低下・過大侵襲により脆弱性が高まった状態の患者・家族にとっての最善、QOLの維持・向上のためのニーズを把握できる
	実践例	助言を受けながら患者の術前から術式をふまえた疾患・病態の理解に必要な情報収集ができる 助言を受けながら患者の術後の呼吸、循環、代謝の状態に関する情報収集ができる 助言を受けながら生命維持装置（人工呼吸器・ペースメーカー・CRRT）が必要な患者のフィジカルアセスメントができる 助言を受けながら患者・家族に対しガイドラインに基づいた早期離床のための情報収集ができる 助言を受けながら患者・家族の痛み・精神症状に関する情報収集ができる 助言を受けながら患者の生体モニターやフィジカルアセスメントを通して急変が認識できる	患者の術前からの術式をふまえた疾患・病態の理解に必要な情報収集ができる 患者の術後の呼吸、循環、代謝の状態に関する情報収集ができる 生命維持装置（人工呼吸器・ペースメーカー・CRRT）が必要な患者のフィジカルアセスメントができる 患者・家族に対しガイドラインに基づいた早期離床のための情報収集ができる 患者・家族の痛み・精神症状に関する情報収集ができる 患者の生体モニターやフィジカルアセスメントを通して急変が認識できる	臓器障害にある患者の個別性を踏まえて重要臓器の評価を通して、合併症予防と早期回復に向けたニーズを把握できる 臓器障害での生命維持に必要な医療機器を使用している患者のフィジカルアセスメントができる 複雑な病態にある患者・家族に必要な精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ情報収集ができる 臓器障害にある患者の臓器評価を踏まえて、優先度の高いニーズをとらえることができる	全人的看護の視点に基づき、生命の危機にある患者・家族に対して、予測的な状況判断のもと意図的にニーズを把握できる 生命の危機にある患者の全体像を把握し、時間の経過とともに推移する状況を予測性をもってとらえることができる 高度なコミュニケーションスキルを駆使し、患者・家族の価値観に基づきニーズをとらえることができる 生命維持に関わる医療機器管理を受けている患者・家族の治療継続・中断に関するニーズを把握できる	患者・家族の長期にわたるQOLの高い生活を考慮した視点でのニーズを把握できる 高齢者・活動耐性の低下・過大侵襲により脆弱性が高まった状態の患者・家族にとっての最善、QOLの維持・向上のためのニーズを把握できる
ケアする力	[JNA] レベル毎の目標	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	
	[JSICM] レベル毎の目標	患者の病態生理を理解し、助言を受けながら患者・家族に基礎看護技術を提供できる	患者・家族や状況（場）に応じた看護を実践し、評価できる	患者・家族に応じた看護実践の工夫ができ、適切なケアが実践できる	患者・家族の反応を予測でき、起こりうる問題に予防的に対処できる	
	[JNA] 【行動目標】	<input type="checkbox"/> 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる <input type="checkbox"/> 指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる <input type="checkbox"/> 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別性とらえ、看護実践に反映ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追及できる <input type="checkbox"/> 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	実践例	助言を受けながら、術後患者に対して看護手順に沿ったケアが実践できる 助言を受けながら、術後の呼吸・循環・代謝を考慮した安全なケアが実践できる 助言を受けながら、ガイドラインに沿った早期離床の援助ができる 急変対応を察知できる観察を実践し、すみやかに報告の上、助言に基づいた行動をとることができる	患者の術後の病態を理解した上で、標準看護計画に基づき自立してケアを実践できる 術後のフィジカルアセスメントから情報を得た上で、看護を実践できる 人工呼吸器を装着した患者の、観察・看護実践・安全管理ができる 急変兆候を察知し、急変時の看護実践ができる	臓器障害の患者の臓器保護を目的として、各種ガイドラインに基づき、合併症予防と早期回復に向けた適切なケアを判断して実践できる 複雑な病態や不安定な状態の患者の日常生活援助ができる 臓器障害での生命維持装置を必要とする状態の患者の安全管理ができる 臓器障害の患者に対する看護実践の優先度を判断し看護実践ができる	患者の反応から、苦痛を緩和し、症状を軽減する看護を実践できる 患者の全体像を把握し、時間の経過とともに推移する状況から予測性を持ち、優先度を考慮した適切な看護を実践できる 患者の重症な病態による、家族が抱える不安や悲嘆に対して看護実践ができる 患者・家族の意向をもとに、医療機器管理をおこなうことができる 患者・家族のニーズに即し、家族がケアに参画できるよう看護実践ができる	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する 最新の知見を、患者・家族に合わせて創造・工夫して実践でき、評価できる 最新の知見を、患者・家族に合わせた創造・工夫して実践でき、評価できる 最新の知見を、患者・家族に合わせた創造・工夫して実践でき、評価できる
	実践例	助言を受けながら、術後患者に対して看護手順に沿ったケアが実践できる 助言を受けながら、術後の呼吸・循環・代謝を考慮した安全なケアが実践できる 助言を受けながら、ガイドラインに沿った早期離床の援助ができる 急変対応を察知できる観察を実践し、すみやかに報告の上、助言に基づいた行動をとることができる	患者の術後の病態を理解した上で、標準看護計画に基づき自立してケアを実践できる 術後のフィジカルアセスメントから情報を得た上で、看護を実践できる 人工呼吸器を装着した患者の、観察・看護実践・安全管理ができる 急変兆候を察知し、急変時の看護実践ができる	臓器障害の患者の臓器保護を目的として、各種ガイドラインに基づき、合併症予防と早期回復に向けた適切なケアを判断して実践できる 複雑な病態や不安定な状態の患者の日常生活援助ができる 臓器障害での生命維持装置を必要とする状態の患者の安全管理ができる 臓器障害の患者に対する看護実践の優先度を判断し看護実践ができる	患者の反応から、苦痛を緩和し、症状を軽減する看護を実践できる 患者の全体像を把握し、時間の経過とともに推移する状況から予測性を持ち、優先度を考慮した適切な看護を実践できる 患者の重症な病態による、家族が抱える不安や悲嘆に対して看護実践ができる 患者・家族の意向をもとに、医療機器管理をおこなうことができる 患者・家族のニーズに即し、家族がケアに参画できるよう看護実践ができる	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する 最新の知見を、患者・家族に合わせて創造・工夫して実践でき、評価できる 最新の知見を、患者・家族に合わせた創造・工夫して実践でき、評価できる 最新の知見を、患者・家族に合わせた創造・工夫して実践でき、評価できる
協働する力	[JNA] レベル毎の目標	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	
	[JSICM] レベル毎の目標	関係者から情報収集し、情報共有ができる	関係者の役割を理解した上で看護チーム内での情報交換ができる	患者・家族やその関係者、多職種と連携することができる	患者・家族を取り巻く多職種の力を調整し連携することができる	
	[JNA] 【行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながら受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる <input type="checkbox"/> 連絡・報告・相談ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる <input type="checkbox"/> 関係者と密にコミュニケーションを取ることができる <input type="checkbox"/> 看護の展開に必要な関係者を特定できる <input type="checkbox"/> 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手とケアについて意見交換できる <input type="checkbox"/> 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手がおかれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携が機能するように調整できる <input type="checkbox"/> 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況（場）の中で見えなくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる <input type="checkbox"/> 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
	実践例	助言を受けながら、患者・家族に必要な術後の情報は何かを明らかにし、関係者から情報収集ができる 助言を受けながら、患者・家族に必要な術後の情報が何かを考え、関係者と情報共有ができる カンファレンスに参加し、自らも術後の情報を提供できる 助言を受けながら、チームの一員として看護師としての役割を果たすことができる 患者・家族の状態に関して、連絡・報告・相談ができる	患者・家族が利用できる人的資源を把握できる 関係者の役割を理解した上で、患者・家族に必要な術後の情報交換ができる 患者・家族に関わる関係者と、自らコミュニケーションを取ることができる 関係者の状況を把握し、術後の看護過程に必要な情報を、看護チーム内でのカンファレンスや他職種との調整会議で提供できる 患者・家族や関係者が、術後の治療や看護ケアについての理解しているかを知ることができる	関係者と協力し、患者・家族の個別的なニーズに対応するため、多職種と連携することができる 患者・家族の状況を捉え、協働が必要な多職種に協力を求めることができる 協働する多職種と、患者の敗血症・循環不全・呼吸不全・多臓器不全などの情報について、積極的に共有することができる 敗血症・循環不全・呼吸不全・多臓器不全などの患者に関する治療方針や検査結果、ケアの内容について、協働する多職種と積極的に共有し、意見を聞くことができる 患者・家族に必要な医療チームを選別し、多職種チーム（ICT、NSTなど）に依頼ができる 患者・家族と方針やケア内容について意見交換ができる	患者が置かれている状況を把握し、末期の治療方針について、患者・家族、医療者と共有することができる 患者が終末期であるという判断を多職種で検討することができる 定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極め、適宜、多職種とディスカッションができる 患者の治療やケアに対する方針等の職種間、家族間のコンフリクトに気づき、多職種と情報を共有し、意見交換することができる	高齢者・活動耐性の低下・過大侵襲により脆弱性が高まった状態の患者に頻発する合併症（認知能力低下・筋力低下・嚥下機能低下）を予防する看護実践ができる 家族に対してメンタルヘルスクア（教育を含む）を実践することができる 高齢者・活動耐性の低下・過大侵襲により脆弱性が高まった状態の患者のケアに対するチーム医療の目標を共有し、多職種を活用することができる 多職種をエンパワーし、多職種の力を引き出すことを通じて、複雑な課題を問題解決に導くことができる
	実践例	助言を受けながら、患者・家族に必要な術後の情報は何かを明らかにし、関係者から情報収集ができる 助言を受けながら、患者・家族に必要な術後の情報が何かを考え、関係者と情報共有ができる カンファレンスに参加し、自らも術後の情報を提供できる 助言を受けながら、チームの一員として看護師としての役割を果たすことができる 患者・家族の状態に関して、連絡・報告・相談ができる	患者・家族が利用できる人的資源を把握できる 関係者の役割を理解した上で、患者・家族に必要な術後の情報交換ができる 患者・家族に関わる関係者と、自らコミュニケーションを取ることができる 関係者の状況を把握し、術後の看護過程に必要な情報を、看護チーム内でのカンファレンスや他職種との調整会議で提供できる 患者・家族や関係者が、術後の治療や看護ケアについての理解しているかを知ることができる	関係者と協力し、患者・家族の個別的なニーズに対応するため、多職種と連携することができる 患者・家族の状況を捉え、協働が必要な多職種に協力を求めることができる 協働する多職種と、患者の敗血症・循環不全・呼吸不全・多臓器不全などの情報について、積極的に共有することができる 敗血症・循環不全・呼吸不全・多臓器不全などの患者に関する治療方針や検査結果、ケアの内容について、協働する多職種と積極的に共有し、意見を聞くことができる 患者・家族に必要な医療チームを選別し、多職種チーム（ICT、NSTなど）に依頼ができる 患者・家族と方針やケア内容について意見交換ができる	患者が置かれている状況を把握し、末期の治療方針について、患者・家族、医療者と共有することができる 患者が終末期であるという判断を多職種で検討することができる 定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極め、適宜、多職種とディスカッションができる 患者の治療やケアに対する方針等の職種間、家族間のコンフリクトに気づき、多職種と情報を共有し、意見交換することができる	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する 最新の知見を、患者・家族に合わせて創造・工夫して実践でき、評価できる 最新の知見を、患者・家族に合わせた創造・工夫して実践でき、評価できる 最新の知見を、患者・家族に合わせた創造・工夫して実践でき、評価できる
意思決定を支える力	[JNA] レベル毎の目標	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	
	[JSICM] レベル毎の目標	患者・家族や周囲の人々の意向を知る	患者・家族や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	患者・家族や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	患者・家族や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	
	[JNA] 【行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる <input type="checkbox"/> 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる <input type="checkbox"/> 法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる	<input type="checkbox"/> 適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる <input type="checkbox"/> 法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
	実践例	助言を受けながら、患者のプライバシーを保護できる 助言を受けながら、患者・家族や周囲の人々の術前の思いや考え、希望を知ることができる 助言を受けながら、改めて患者・家族や周囲の人々の術後の思いや考え、希望を知ることができる	患者のプライバシーを保護できる 患者・家族や周囲の人々の術前の思いや考え、希望を知ることができる 改めて患者・家族や周囲の人々の術後の思いや考え、希望を知ることができる 患者・家族や周囲の人々から確認した思いや考え、希望を術後のケアに関連づけることができる	患者・家族の治療選択に必要な情報を提供することができる 自分の意思を表現できない生命危機的状況にある患者の代理意思決定者を家族や医療職者で検討できる 代理意思決定者に意思決定に必要な情報を提供できる 自分の意思を表現できない生命危機的状況にある患者・家族と周囲の人々の意向の違いに気づくことができる 自分の意思を表現できない生命危機的状況にある患者・家族や周囲の人々の意向の違いを多職種で共有できる	終末期にある患者の推定意思、家族と周囲の人々の意向を知ることができる 終末期にある患者・家族や周囲の人々の意思決定を支援するための医療チームカンファレンスが運営できる 意思決定プロセスを支援する上で、家族間のコミュニケーションを促進することができる 患者・家族のエンドオブライフケアの治療やケアに対する、職種間・家族間のコンフリクトを多職種と役割分担して問題解決ができる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
	実践例	助言を受けながら、患者のプライバシーを保護できる 助言を受けながら、患者・家族や周囲の人々の術前の思いや考え、希望を知ることができる 助言を受けながら、改めて患者・家族や周囲の人々の術後の思いや考え、希望を知ることができる	患者のプライバシーを保護できる 患者・家族や周囲の人々の術前の思いや考え、希望を知ることができる 改めて患者・家族や周囲の人々の術後の思いや考え、希望を知ることができる 患者・家族や周囲の人々から確認した思いや考え、希望を術後のケアに関連づけることができる	患者・家族の治療選択に必要な情報を提供することができる 自分の意思を表現できない生命危機的状況にある患者の代理意思決定者を家族や医療職者で検討できる 代理意思決定者に意思決定に必要な情報を提供できる 自分の意思を表現できない生命危機的状況にある患者・家族と周囲の人々の意向の違いに気づくことができる 自分の意思を表現できない生命危機的状況にある患者・家族や周囲の人々の意向の違いを多職種で共有できる	終末期にある患者の推定意思、家族と周囲の人々の意向を知ることができる 終末期にある患者・家族や周囲の人々の意思決定を支援するための医療チームカンファレンスが運営できる 意思決定プロセスを支援する上で、家族間のコミュニケーションを促進することができる 患者・家族のエンドオブライフケアの治療やケアに対する、職種間・家族間のコンフリクトを多職種と役割分担して問題解決ができる	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する 最新の知見を、患者・家族に合わせて創造・工夫して実践でき、評価できる 最新の知見を、患者・家族に合わせた創造・工夫して実践でき、評価できる 最新の知見を、患者・家族に合わせた創造・工夫して実践でき、評価できる